

「第2次坂出市健康増進計画」取組状況

No.	分野	大目標	小目標	担当部署	関連事業	平成30年度の実績(見込)	事業の評価	評価理由	2019年度の取り組み
55	7 生活習慣病 (循環器疾患)	循環器疾患の発症予防と早期発見・重症化防止に努めよう	① 循環器疾患に関する正しい知識を身につける	けんこう課	・健康教育 ・健康診査 ・人間ドック ・特定保健指導	・医師のお話において、健康診査後のフォローを兼ねて4回実施し、延べ64名が参加。 ・人間ドック:222名 人間ドック助成は3年目となり、対象者のうち2年以上助成対象となったかたが5割、新規のかたが5割となっている。 ・特定保健指導実施率:14.0% (H31.2月末時点) 積極的支援:対象65名→完了者8名 動機付け支援:対象298名→完了者43名	継続	・医師による講話については参加者が少なく、費用対効果を考えて実施していく必要がある。 ・人間ドックをより新規のかたにも多く利用してもらい、市民の疾病の早期発見および早期治療のため実施する。 ・特定保健指導実施率は低迷しているが、今後も保健指導による個々のモニタリング、経過観察した上での効果的な指導を実施していく必要がある。	・人間ドックの定員数を275名として実施。 ・特定保健指導は引き続き実施。
56				学校教育課	・小児生活習慣病検査は4年生で9月に実施している。実施前、実施後にすべての4年生対象に生活習慣病の一つである「循環器疾患」について保健学習を実施。	今年度は、血液検査実施の9月を中心に県が作成した指導資料(DVD,パンフレット)を使って事前指導、事後指導を4年生全員に実施した。また、1次健診で指導が必要と判断された子どもに対しては、個別に指導をした。	継続	4年生という成長期の重要な時期に受診し、チェックを行うことは、健康について考える機会であり、それ以後の意識改革にとって大変重要であると考えられる。	継続実施
57			② 健康診査を定期的に受ける	けんこう課	・健康教育 ・各種検(健)診の周知活動 ・健康診査 ・人間ドック	・医師のお話において、健康診査後のフォローを兼ねて4回実施し、延べ64名が参加。 ・各地区における健康教育において、健康診査受診の必要性や実施の周知を行う。 ・人間ドック:222名 人間ドック助成は3年目となり、対象者のうち2年以上助成対象となったかたが5割、新規のかたが5割となっている。	継続	・医師による講話については参加者が少なく、費用対効果を考えて実施していく必要がある。 ・人間ドックをより新規のかたにも多く利用してもらい、市民の疾病の早期発見および早期治療のため実施する。	・人間ドックの定員数を275名として実施。
58				学校教育課	小学校4年生をスタートとして、気になる子どもに対しては、毎年の定期検査をお願いしている。	小学校4年での、「小児生活習慣病予防健診」をきっかけに、子どもの健康診査を意識する保護者が増加している。年一回程度の定期検査を受ける家庭が増加している。学校では、特に指導が必要な子どもに対し、保護者の協力を得て、健診を受けるよう指導している。	継続	保護者によっては、小学校4年生で健診があることを知っている。そして、その健診を意識して低学年から生活習慣を見直している家庭が増えてきた。	継続実施
59			③ 生活習慣を改善する	けんこう課	<再掲(No.55)>	<再掲(No.55)>	継続	<再掲(No.55)>	<再掲(No.55)>
60				学校教育課	小学校4年生の健診データをもとに、子どもたちの生活習慣を整えようとする動きが全校に広がりつつある。	県から毎年、小児生活習慣病予防健診の結果が小学校に周知されている。そのデータをもとに学校においては、子どもに対する生活習慣の調査が進められている。そして、データをもとに県全体との比較も容易にでき、改善に向けた取組が行われている。	継続	自校の子どもたちの生活習慣における実態が明らかになっている。改善に向けての努力点がよく見えている。	継続実施